

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第17期第2四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 株式会社イデアインターナショナル

【英訳名】 IDEA INTERNATIONAL CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 橋本 雅治

【本店の所在の場所】 東京都港区芝五丁目13番18号M.T.Cビルディング3階

【電話番号】 03-5446-9505

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼経営管理部長 松原 元成

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝五丁目13番18号M.T.Cビルディング3階

【電話番号】 03-5446-9505

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼経営管理部長 松原 元成

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第16期 第2四半期 連結累計期間		第17期 第2四半期 連結累計期間		第16期	
		自	平成22年7月1日 至 平成22年12月31日	自	平成23年7月1日 至 平成23年12月31日	自	平成22年7月1日 至 平成23年6月30日
売上高	(百万円)		2,607		2,816		5,122
経常利益または経常損失()	(百万円)		48		43		42
四半期純利益または四半期(当 期)純損失()	(百万円)		46		34		85
四半期包括利益または包括利益	(百万円)		37		34		76
純資産額	(百万円)		156		152		117
総資産額	(百万円)		2,990		2,982		2,643
1株当たり四半期純利益金額ま たは四半期(当期)純損失()	(円)		70.02		46.94		121.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)				23.36		
自己資本比率	(%)		5.2		5.1		4.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		260		22		188
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		80		25		178
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		462		71		377
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		446		351		333

回次		第16期 第2四半期 連結会計期間		第17期 第2四半期 連結会計期間	
		自	平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自	平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		112.10		136.60

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第16期第2四半期連結累計期間及び第16期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在しますが、1株当たり四半期(当期)純損失のため、記載しておりません。

4. 第16期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において、営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の打撃から緩やかに回復に向かいつつあるという見方がある一方で、復興財源確保に伴う税制改正、欧州金融危機による世界経済の減速懸念や、円高の長期化等により、経済の先行きへの不安が高まっております。

当社グループはこうした環境の中、住関連ライフスタイル商品製造卸売事業におきましては、期首から取り組んでいる組織マネジメント力の向上及び新規カテゴリーの売り場提案営業の強化などにより、国内専門店への販売が上位取引先を中心に好調に推移し、前年同期を上回る結果となりました。

一方、住関連ライフスタイル商品小売事業は、デザイン性の高いトラベルグッズをセレクトした「Travel Shop Gate」の2店舗を始めとする前期に新規出店した店舗が計画を大きく上回る結果で推移したことにより、こちらも前年同期を上回る結果となりました。

以上の結果、売上高は2,816百万円(前年同四半期は2,607百万円)、営業利益は77百万円(前年同四半期は10百万円)、経常利益は43百万円(前年同四半期は48百万円の損失)、四半期純利益は34百万円(前年同四半期は46百万円の損失)となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

住関連ライフスタイル商品製造卸売事業においては、前述のとおり専門店向け販売が前年同期に比べて伸長したことにより、売上高1,596百万円(前年同四半期は1,587百万円)、営業利益は18百万円(前年同四半期は46百万円の損失)となりました。

住関連ライフスタイル商品小売事業においては、前述のとおり新業態を中心に好調に推移したことから売上高1,219百万円(前年同四半期は1,006百万円)、営業利益は62百万円(前年同四半期は59百万円)となりました。

その他においては、売上高は0百万円(前年同四半期は12百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、2,982百万円(前連結会計年度末は2,643百万円)となり、338百万円増加しました。

流動資産は、2,455百万円(前連結会計年度末は2,074百万円)となり、380百万円増加しました。これは受取手形及び売掛金(純額)の増加(182百万円)、商品及び製品の増加(140百万円)等があったことによるものであります。

固定資産は、527百万円(前連結会計年度末は568百万円)となり、41百万円減少しました。これは有形固定資産の減少(30百万円)等があったことによるものであります。

流動負債は、2,096百万円(前連結会計年度末は1,794百万円)となり、301百万円増加しました。これはデリバティブ債務の減少(14百万円)等があったものの、支払手形及び買掛金の増加(240百万円)及び短期借入金の増加(69百万円)等があったことによるものであります。

固定負債は、733百万円(前連結会計年度末は731百万円)となり、2百万円増加しました。これは長期借入金の増加(5百万円)等があったことによるものであります。

純資産は、152百万円(前連結会計年度末は117百万円)となり、34百万円増加しました。これは利益剰余金の増加(34百万円)があったことによるものであります。

(3) キャッシュ・フロー状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末の残高333百万円に対して17百万円増加し、351百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は22百万円(前年同四半期は260百万円)となりました。

これは、減価償却費(58百万円)及び仕入債務等の増加(240百万円)等による資金の増加があったものの、売上債権の増加(182百万円)及びたな卸資産の増加(140百万円)等の資金の減少があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は25百万円(前年同四半期は80百万円)となりました。

これは、有形固定資産取得(19百万円)等による資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は71百万円(前年同四半期は462百万円)となりました。

これは、短期借入金の純増(76百万円)等による資金の増加があったことによるものであります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,248,000
計	2,248,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	791,000	791,000	大阪証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数は100株であります。
計	791,000	791,000		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年12月31日		791,000		300		238

(6) 【大株主の状況】

平成23年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
橋本 雅治	東京都世田谷区	313,200	39.6
エレコム株式会社	大阪府大阪市中央区伏見町4-1-1	146,500	18.5
株式会社アイデアインターナショナル	東京都港区芝5-13-18	48,563	6.1
株式会社丸井グループ	東京都中野区中野4-3-2	30,000	3.8
松原 元成	千葉県野田市	22,000	2.8
野村證券株式会社	東京都千代田区大手町1-2-3	19,600	2.5
株式会社サステイナブル・イン ベスター	沖縄県名護市大西1-20-12	18,700	2.4
アイデアインターナショナル役員 持株会	東京都港区芝5-13-18	18,400	2.3
大舘 直人	東京都中央区	15,000	1.9
三菱UFJキャピタル株式会社	東京都中央区日本橋1-7-17	12,700	1.6
計		644,663	81.5

(注) 「株式会社アイデアインターナショナル」が所有している株式は自己株式であり、会社法第308条第2項により議決権はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 48,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 742,300	7,423	
単元未満株式	普通株式 200		自己株式63株を含む
発行済株式総数	791,000		
総株主の議決権		7,423	

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アイデアインター ナショナル	東京都港区芝5-13-18	48,500		48,500	6.1
計		48,500		48,500	6.1

(注) 上記の他、単元未満株式200株に自己株式63株が含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年7月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清和監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	333	351
受取手形及び売掛金(純額)	1, 2 406	1, 2 589
商品及び製品	1,024	1,165
原材料及び貯蔵品	0	0
その他	309	348
流動資産合計	2,074	2,455
固定資産		
有形固定資産	249	219
無形固定資産	54	44
投資その他の資産	1 264	1 262
固定資産合計	568	527
資産合計	2,643	2,982
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	273	3 514
短期借入金	1,206	1,275
未払法人税等	6	5
引当金	20	25
デリバティブ債務	29	14
その他	256	260
流動負債合計	1,794	2,096
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	403	405
長期借入金	312	317
その他	15	10
固定負債合計	731	733
負債合計	2,525	2,829
純資産の部		
株主資本		
資本金	300	300
資本剰余金	238	238
利益剰余金	358	323
自己株式	62	62
株主資本合計	117	152
純資産合計	117	152
負債純資産合計	2,643	2,982

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
売上高	2,607	2,816
売上原価	1,381	1,468
売上総利益	1,225	1,348
返品調整引当金戻入額	6	5
返品調整引当金繰入額	8	8
差引売上総利益	1,223	1,345
販売費及び一般管理費	1,213	1,267
営業利益	10	77
営業外収益		
デリバティブ評価益	57	14
その他	0	1
営業外収益合計	57	16
営業外費用		
支払利息	15	17
為替差損	90	30
その他	10	4
営業外費用合計	116	51
経常利益又は経常損失()	48	43
特別利益		
役員退職慰労引当金戻入額	51	-
その他	0	-
特別利益合計	51	-
特別損失		
固定資産除却損	25	6
減損損失	0	0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	31	-
特別損失合計	57	6
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	54	36
法人税等	35	1
法人税等還付税額	42	-
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	46	34
四半期純利益又は四半期純損失()	46	34

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	46	34
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	9	-
その他の包括利益合計	9	-
四半期包括利益	37	34
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37	34
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	54	36
減価償却費	53	58
減損損失	0	0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	38	-
販売促進引当金の増減額(は減少)	1	1
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	49	-
支払利息	15	17
為替差損益(は益)	2	5
売上債権の増減額(は増加)	260	182
たな卸資産の増減額(は増加)	116	140
仕入債務の増減額(は減少)	177	240
その他	86	43
小計	281	6
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	14	12
法人税等の支払額	4	3
法人税等の還付額	40	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	260	22
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	53	19
無形固定資産の取得による支出	2	0
敷金及び保証金の差入による支出	21	0
その他	2	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	80	25
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	76
長期借入れによる収入	100	-
長期借入金の返済による支出	134	1
社債の発行による収入	400	-
株式の発行による収入	100	-
その他	3	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	462	71
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	5
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	124	17
現金及び現金同等物の期首残高	322	333
現金及び現金同等物の四半期末残高	446	351

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日至平成23年12月31日)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
流動資産	1百万円	1百万円
投資その他の資産	40 "	40 "

2 手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形割引高	58百万円	44百万円
受取手形裏書譲渡高		16 "

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
支払手形		0百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
倉庫料	80百万円	83百万円
荷造運賃	65 "	74 "
業務委託費	65 "	66 "
給与手当	371 "	397 "
地代家賃	177 "	200 "
役員退職慰労引当金繰入額	2 "	
販売促進引当金繰入額	4 "	5百万円
貸倒引当金繰入額	3 "	
減価償却費	31 "	38百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 7 月 1 日 至 平成22年12月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 7 月 1 日 至 平成23年12月31日)
現金及び預金	446百万円	351百万円
現金及び現金同等物	446百万円	351百万円

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 平成22年 7 月 1 日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成22年 9 月30日付で、エレコム株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第 2 四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金が50百万円それぞれ増加し、当第 2 四半期連結会計期間末において資本金が300百万円、資本剰余金が238百万円となっております。

当第 2 四半期連結累計期間(自 平成23年 7 月 1 日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注)1	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (百万円) (注)3
	住関連ライフ スタイル商品 製造卸売事業 (百万円)	住関連ライフ スタイル商品 小売事業 (百万円)	計 (百万円)			
売上高						
外部顧客への売上高	1,587	1,006	2,594	12		2,607
セグメント間の内部売上高 または振替高						
計	1,587	1,006	2,594	12		2,607
セグメント利益または損失 ()	46	59	13		3	10

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オフィス・店舗空間のコンセプト・デザインを企画する空間プロデュース事業等を含んでおります。

2 セグメント利益または損失の調整額 3百万円は、各報告セグメントに配賦不能の損益(3百万円)であります。

3 セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注)1	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (百万円) (注)3
	住関連ライフ スタイル商品 製造卸売事業 (百万円)	住関連ライフ スタイル商品 小売事業 (百万円)	計 (百万円)			
売上高						
外部顧客への売上高	1,596	1,219	2,816	0		2,816
セグメント間の内部売上高 または振替高						
計	1,596	1,219	2,816	0		2,816
セグメント利益または損失 ()	18	62	81		3	77

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オフィス・店舗空間のコンセプト・デザインを企画する空間プロデュース事業等を含んでおります。

2 セグメント利益または損失の調整額 3百万円は、各報告セグメントに配賦不能の損益(3百万円)であります。

3 セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額または四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額または四半期純損失金額()	70円02銭	46円94銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額または四半期純損失金額()(百万円)	46	34
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額または四半期純損失金額()(百万円)	46	34
普通株式の期中平均株式数(株)	669,983	742,437
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		23円36銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		2,000
(うち支払利息(税額相当額控除後))		2,000
普通株式増加数(株)		835,073
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変更があったものの概要		

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在しますが、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月10日

株式会社イデアインターナショナル

取締役会 御中

清和監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 川田 増三 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 藤本 亮 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イデアインターナショナルの平成23年7月1日から平成24年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年7月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イデアインターナショナル及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。